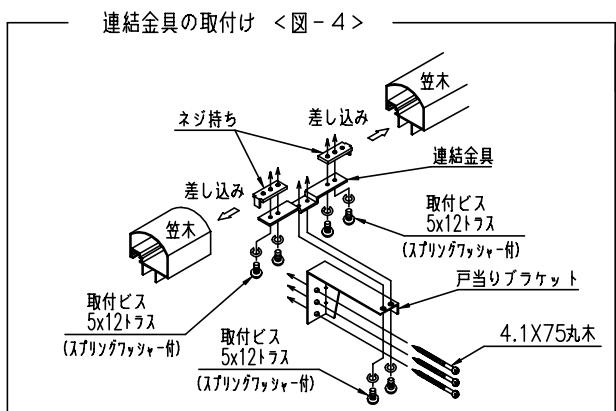
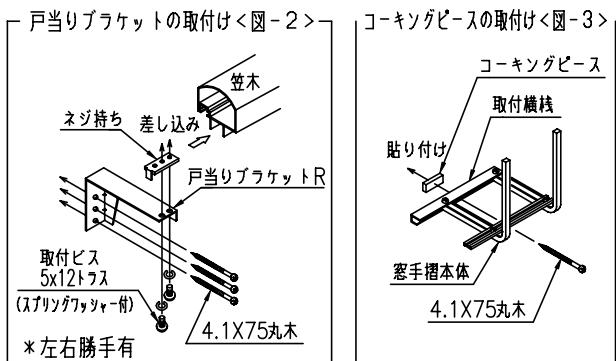
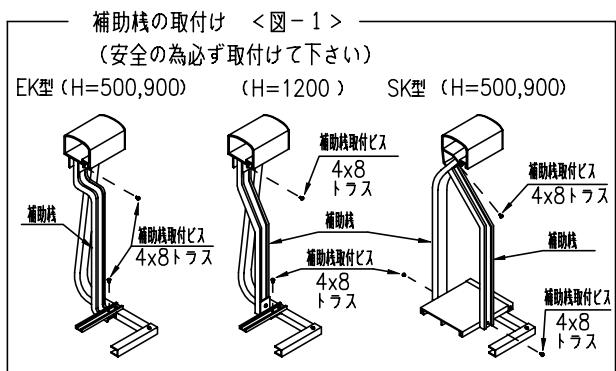


単体サッシ（軸体付け）用 窓手摺り組立施工マニュアル

■ 取付方法

- 1) 補助桿の取付け <図-1参照>
窓手摺り本体に補助桿を取付けて下さい。
- 2) 戸当りブラケットの取付け <図-2参照>
笠木に戸当りブラケットを仮止めして下さい。
- 3) コーキングピースの取付け <図-3参照>
取付横桿へコーキングピースを貼り付けて下さい。
*コーキングピースは取付横桿の木ネジ取付孔
に合わせて貼り付けて下さい。

- 4) 連結金具の取付け <図-4参照>
笠木に連結金具及び戸当りブラケットを仮止めして下さい。
- 5) 窓手摺りの取付け <図-5参照>
窓手摺り本体の幅方向の位置を調整後、笠木と戸当りブラケット <図-2>
を固定し、窓手摺り本体を軸体に取付て下さい。<図-2・図-3>

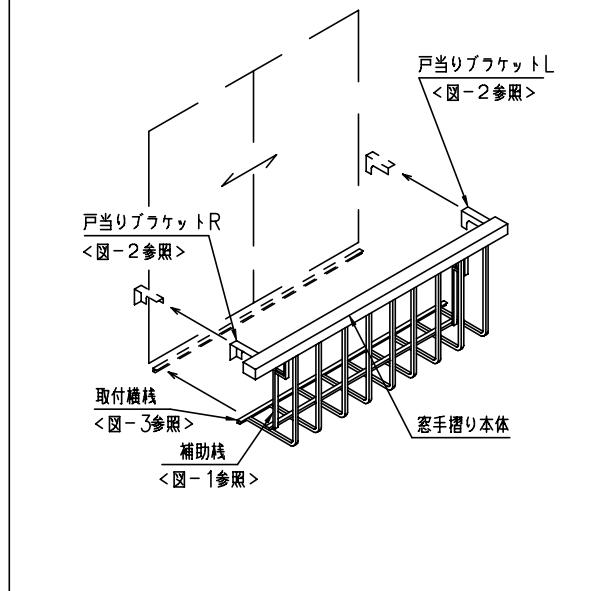


■ 部品箱明細

姿図	部品名称	部品No.	一般サッシ(軸体付け用)
			T8TLD01 88TLD01
	戸当りブラケット R	NEB-591R	1
	戸当りブラケット L	NEB-591L	1
	連結金具	NLB-70	1
	ネジ持ち	NBN-41	2
	コーキングピース	NBC-80	11
	取付ビス 5x12トラス (スプリングワッシャー付)	MTB5X12	5
	取付ビス 4x8トラス (補助桿取付用)	3TB4X8	6
	取付ビス 4.1X75丸木	WR41X75	17
	取付説明書	MN-1450	1

窓手摺りの取付け <図-5>

一般サッシ



木造住宅用アルミ製窓手すり 施工の手引き

■ 禁止事項ならびにご注意

- ⚠ 他社製アルミサッシの枠には、直付けすることはできませんので軸体付けて施工してください。
- ⚠ 木造住宅用アルミ製手すりは、そのままではRC・鉄骨造ALC外壁には施工できません。
- ⚠ 窓手すりの切り詰め以外の改造は絶対にしないでください。

■ 窓手すりの組み立て・取り付け上の留意点

- 建築図面等から柱・間柱・窓台などの位置・寸法・外装材・下地材の寸法を確認してください。
- 付属の部品・ねじ、または指定された部品・ねじ類を必ず使用してください。
- 組立て説明書にしたがって組み立ててください。特にねじ類は確実に締め付けてください。
- ブラケットは柱位置に確実に取付けてください。
- 取付けの木ねじの柱へのねじ込み長さは、30mm以上になるようにしてください。（図-A 参照）
- 木ねじの取付け位置は、柱の端部にならないよう、また外装材の端部にならないようにしてください。（図-B 参照）

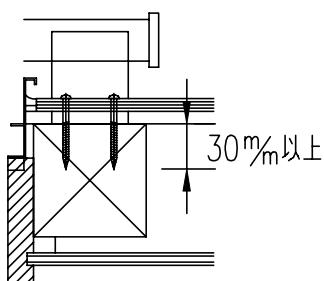


図 - A

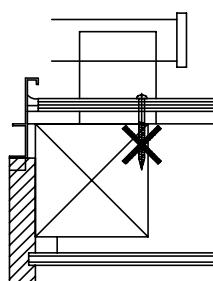


図 - B

外装材や下地材が厚い場合には、付属の木ねじでは、ねじ込み長さが不足する場合があります。
このような場合には、メーカーのカタログ・説明書を確認するか、メーカーに問い合わせてください。

- ねじ止めは確実に締め付けてください。（図-C 参照）
- 外壁に下穴を明ける場合、柱まで穴を明けないようにしてください。ねじの支持力が激減します。（図-D 参照）
- 外装材に明けた穴には窓手すりブラケットをねじ止めする際、コーキング材を充填して漏水を防止してください。（図-E 参照）

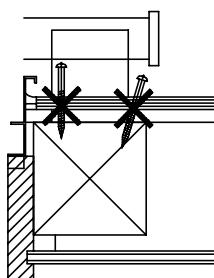


図 - C

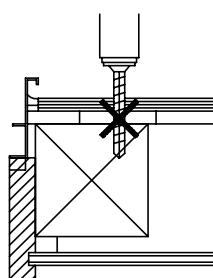


図 - D

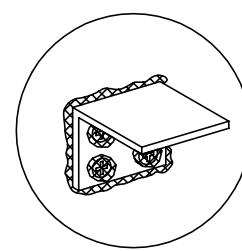


図 - E

- サイディング通気工法の場合、窓手すりの取付け位置に胴縁があることを確認してください。（図-F 参照）
- 発泡材を充填または貼り合わせた金属サイディングの場合には、その上から取付けないでください。（図-G 参照）
サイディングがくぼんで意匠を損なったり、窓手すりのガタツキの原因になります。

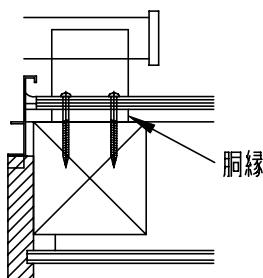


図 - F

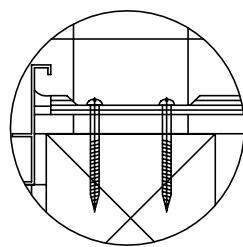


図 - G

あらかじめ胴縁下地材を入れておくように
建築施工業者と相談しておいてください。

- サッシ枠への取付けが可能な製品の場合は、説明書に従い正しく施工してください。
- 施工後、各部の締め忘れや緩みがないか、よく確認してください。
- 窓内側から、笠木を強くゆすり、ガタツキや緩みがないかよく確認してください。
- 検査される人は安全に十分ご注意ください。